

基調講演 近世日本における「塾」という空間

橋本 昭彦 soubun@white.plala.or.jp

(足利市世界遺産検討会議 座長、

国立教育政策研究所 総括研究官)

1 まえおき

- ・江戸時代～「大開発」の時代の社会変化 **【資料1】**
- ・日本人の「学識」～外国人の記録・証言から
- ・身分に関わりないお稽古好き・学習好き **【資料2】江戸師匠の人名録**

2 「塾」ということば

- ・広漢和：もんべや。門の両側の小部屋で家中の者を教えた。音は「孰」
- ・「手習塾」＝いわゆる寺子屋、「学問塾」＝漢学塾、洋学塾、国学塾、医学塾など
- ・「寺子屋」「私塾」「藩校」という分類自体は、明治以後に通用 **【資料3】**
- ・必ずしも「～塾」とは名乗らない **【資料4】主な私塾の名称**

3 「塾」の歴史 ～近世教育機関の一つの基本型か

- ・起源は不明。「藩校」よりは古くからあり、藩校の消滅後も存在
- ・「藩校」といっても「塾」を取り込んだものも少なくない
例：笠間藩の時習館＝文化14年（1817）、秋元浚郊（しゅんこう）の私塾を藩校とした
例：岩槻藩の遷喬館（埼玉県）＝文化年間に児玉南柯の私塾を藩校とした
幕府の昌平坂学問所も、林家塾から学問所へと展開 **【資料5】**

4 「塾」の多様化

- ・儒学、洋学、国学、医学、兵学、その他
- ・地域で発展した塾が多い → 全国展開の有名塾も **【資料6】門人の出身圏**
- ・同志の「勉強会」に近いものも
例：幕臣・近藤重蔵の「白山義塾」や幕臣・三島政養（まさきよ）の勉強会など
- ・塾の規模も教育内容もレベルもまちまち。結果中心・評判中心で評価が定まる

5 教育の全国システム

- ・幕藩体制の行政文書の書式や書体に共通性 → 「書き方」の学習に共通性
 - ・師匠や学習者の全国的ネットワーク → **【資料6を再参照】**
 - ・塾などの学校間交流や影響関係
例：咸宜園の「月旦法」の伝播 **【資料7】**
- 多様な学び手に対応する仕組み
→ 保存状態などの良好な4資産で世界遺産登録を目指している

6 終わりに

- ・塾の歴史は不明の部分が多い、細部こそ大事、研究は無限

橋本昭彦氏講演要旨

近世日本における「塾」という空間

担当： 橋本 昭彦 soubun@white.plala.or.jp

【資料1】江戸時代～「大開発」の時代の社会変化

	江戸初期 (1603) のころ	享保 (1716-1736) のころ
人 口	1000万～1200万	3128万人 (1721年)
耕地面積	206万町歩	297万町歩 (1730年頃)
人間関係	従来は、血縁・地縁が主 (見える人間関係)	契約・為替・手紙の普及 (文書化・ネットワーク化)
文書量	法令、行政文書、契約書、通信が増加	さらに増大

大石慎三郎 (1923-2004) 『江戸時代』、中公新書、1977、をもとに橋本作成

【資料2】江戸の師匠の人名録 (1860年頃)

教授内容

画 儒算 儒書

宥 逸 齋 齋

名前

在宿日時

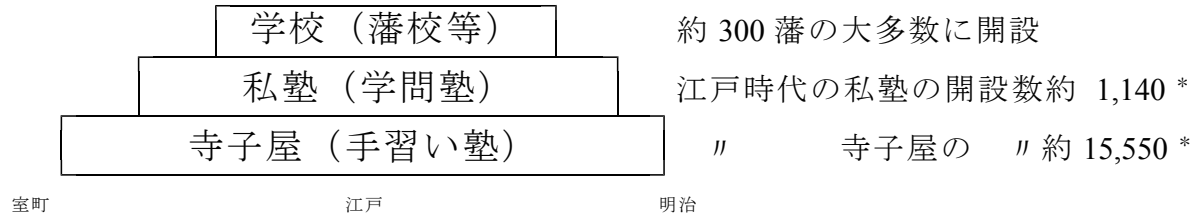
在宿八ツ前 在宿二七

住所

樋口逸齋 1812-1877 江戸後期-明治時代の書家。幼時から父にまなぶ。頼山陽に師事して詩文もよくした。名は観之。字(あざな)は子順。通称は昌介。

『安政文雅人名録』1860年頃、早稲田大学付属図書館所蔵。「樋口逸齋」は『日本人名大辞典』より一部引用。

【資料3】寺子屋（手習い塾）→私塾（学問塾）→武士の学校（藩校等）



* 数値は文部省『日本教育史資料』（1890）

【資料4】主な私塾の名称

主な漢学塾（他県）

護園塾（東京） - 荻生徂徠
 長善館（新潟） - 桂湖村
 藤樹書院（滋賀） - 中江藤樹
 古義堂（京都） - 伊藤仁斎
 懷徳堂（大阪） - 中井鰲庵
 泊園書院（大阪） - 藤沢東畝
 松下村塾（山口） - 吉田松陰
 咸宜園（大分） - 広瀬淡窓
 心学講舎（東京他） - 石田梅岩

主な国学塾

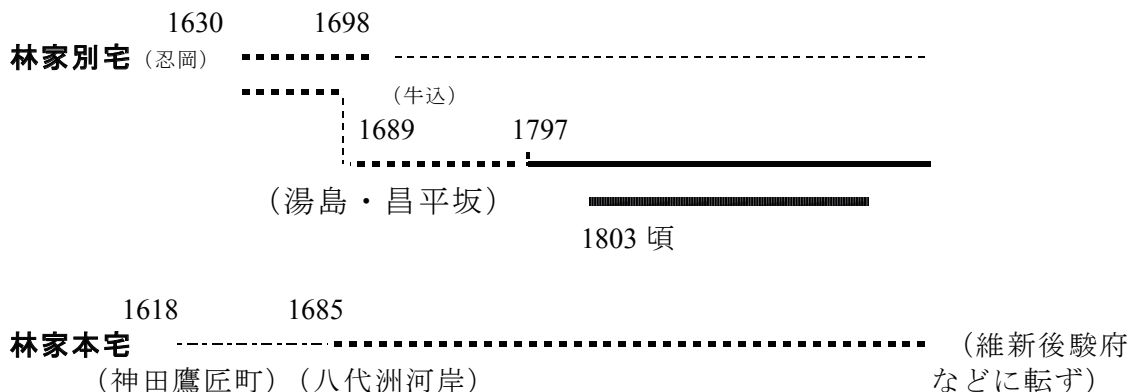
和学講談所（東京） - 塙保己一
 鈴屋塾（三重） - 本居宣長

主な洋学塾

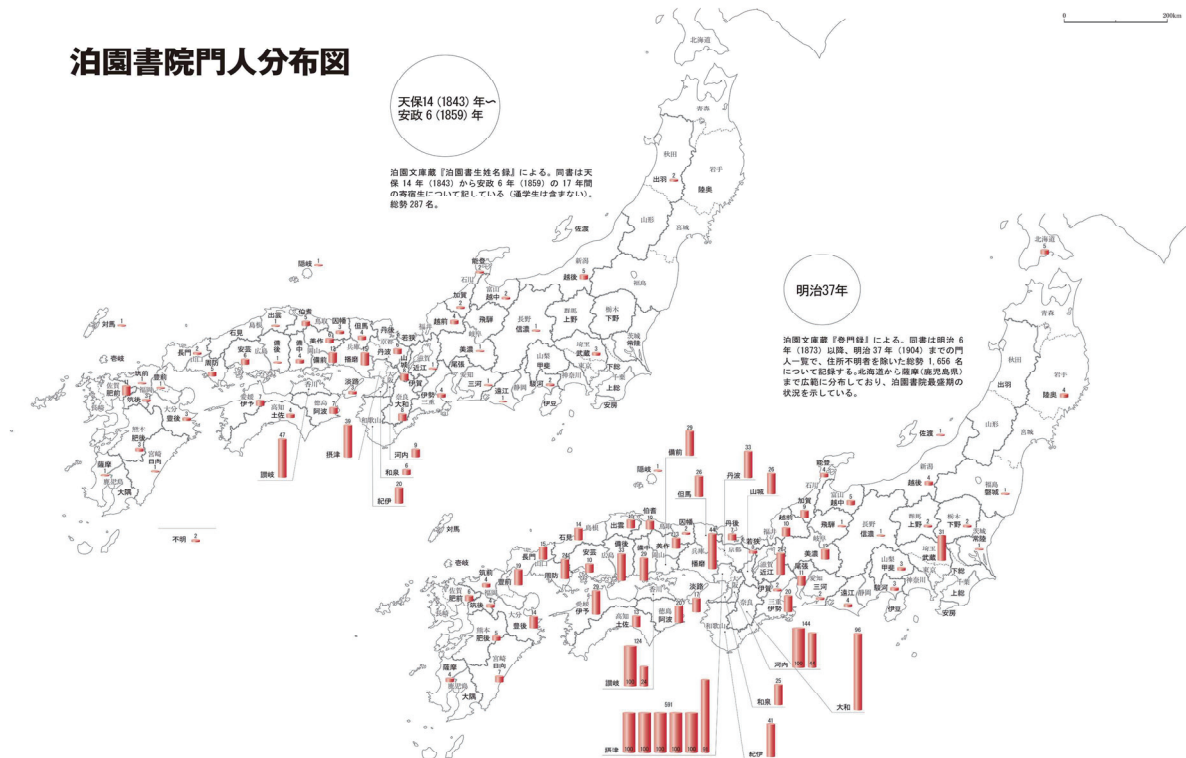
芝蘭堂（東京） - 大槻玄沢
 慶應義塾（東京） - 福澤諭吉
 適塾（大阪） - 緒方洪庵
 鳴滝塾（長崎） - シーボルト

【資料5】林家塾から昌平坂学問所への展開

施設名（場所） 林家塾 —— 昌平坂学問所 ——— 昌平坂学問所書生寮



【資料6】門人の出身圏～泊園書院の門人の分布図（1843～1859年、1904年）



泊園書院のウェブサイト：<http://www.db1.csac.kansai-u.ac.jp/hakuen/syoin/monjin.html>

参考文献：吾妻重二「泊園書院と関西大学」『関西大学年史紀要』20（2011年）

【資料7】日田・咸宜園の全国的な影響



「咸宜園図」(公益財団法人 廣瀬資料館蔵)